

初台リハビリテーション病院

近隣の本町学園小学校主催の「本町まつり」に参加

地域連携委員会で参加したこのお祭りは、渋谷区で活動をしている団体・企業などが集まり、住民と交流を図ることを目的に開催され、当院では病院紹介として「リハビリ・車椅子体験」をメインにブース展開を行いました。リハビリ体験では、「ストラックアウト」「バランスゲーム」「早口言葉」などをゲーム形式で対戦。車椅子体験では「手動・電動」を乗り比べていただくように案内を行いました。どちらも予約待ちをお願いするほどの、大盛況で終わることが出来ました。



船橋市立リハビリテーション病院

3月11日 市民公開講座開催しました

今回は『いきいきと暮らすために日常で取り組めること～自宅でできる腰痛・膝痛・転倒予防のための簡単自己チェック～』と題して開催しました。スライドには写真を盛り込み、参加者の方に実際に体操をしていただくなど、わかりやすい内容で好評をいただきました。

来年度も、身近な事例についてわかりやすい内容を検討していく予定ですので、ご参加宜しくお願ひ致します。



船橋市リハビリセンター

第17回 船橋市地域リハビリテーション研究大会 開催

2月17日(土) 船橋市民文化創造館きららホールにて開催。講師に厚労省老人保健課課長補佐 井口豪氏をお招きし、「地域包括ケアシステムに向けた同時改定」というテーマでご講演いただきました。一般演題では当センター職員の泉水泰良PTより「自立支援に向けた通所リハでの取り組み」というテーマにて、センターで行った「歩こう会」について発表し、地域に根差した在宅支援拠点として機能していることをアピールできた大会になりました。



在宅総合ケアセンター元浅草

恒例行事となった「お花見」を今年も開催します

写真は昨年のお花見のときに撮影したのですが、東京スカイツリーを望む山谷堀公園は好天に恵まれ、通所リハビリテーションをご利用の皆さまと楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

今年も昨年同様に曜日ごとに利用者さまのご希望を募り、皆さまと穏やかな春の日差しを受けながらお花見ができることを楽しみにしております。皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。



在宅総合ケアセンター成城

四季の飾り

成城では四季にあわせて様々な飾り付けやイベントを行っています。12月はクリスマスツリーの飾り付け、1月は餅つき大会、3月は1階総合受付前にひな壇を飾りました。1年に1回、間違えないように再確認しながら丁寧に。利用者さま・ご家族さまからは昔の思い出話や心が和らぐ等たくさんのご意見を頂きました。これからも当院をご利用の皆さまに少しでも楽しんでいただけるように趣向を凝らして参ります。



初代会長と新理事長 就任のご挨拶

会長就任にあたり



会長 石川 誠

かつて東京都心部に回復期から生活期のリハビリテーション医療サービスの提供拠点はほとんど存在していませんでした。当時の都心部はリハビリテーション医療砂漠の状態だったのです。こうした状況を打破するために、平成14年に医療法人輝生会を設立し、初台リハビリテーション病院の開設に始まり、この16年間でリハビリテーション医療サービス拠点の整備を推進して参りました。

現在では、在宅総合ケアセンター元浅草、在宅総合ケアセンター成城、船橋市立リハビリテーション病院、船橋市リハビリセンターの計5カ所の拠点が整備され、常勤職員数は240名から1,200名へと5倍に増加し、その活動も軌道に乗って

きたように思えます。法人開設当初から「寝たきり」を作らない医療サービスの提供をモットーに、「One for all, All for one」の精神でチームアプローチの推進に努め、各拠点における提供サービスの質を高く保ち続け、スタッフの教育研修には最も力を注いできたところでした。法人を設立し、理事長および初台リハビリテーション病院院長を兼務した当時、小生は55歳でしたが、今年で72歳になります。そこで、幹部の若返りをはかり、さらなる飛躍を目指そうと考え、新たな執行部体制に変更することにいたしました。

新理事長および教育研修局長に元リハビリテーション医学会理事長である水間正澄、リハケア局長に大川智恵子、事務局長に堅田由美子を据え、新たな若手の理事も加わります。

小生は会長職に退くこととなりますが、当法人の基本思想は何ら変わることはありません。何卒これまで以上にご支援くださいますよう、よろしくお願ひ申しあげます。

理事長就任にあたり



理事長 水間 正澄

この度、石川 誠 前理事長の後任として医療法人社団輝生会理事長に就任いたしましたので一言ご挨拶申し上げます。

輝生会は回復期のリハビリテーション医療と在宅におけるリハビリテーション医療を提供することを目的に 石川 誠 前理事長により設立されました。法人の基本理念はリハビリテーションの理念に基づいており「再び輝いて生き生きとした人生」を送っていただきたいという願ひが込められております。

そのために、急性期病院からリハビリテーション医療の継続を必要とする方々をできるだけ早期に回復期リハビリテーション病棟に受け入れ、多職種による徹底したチームア

プローチにより集中的かつ総合的なリハビリテーション治療を行うことにより在宅生活への復帰を目指しております。

そして、在宅生活に復帰された方々には必要に応じて通院・通所・訪問・短期入院など様々な形でのリハビリテーション医療を提供いたしております。

輝生会の5つの拠点ではそれぞれの特色を生かして病気やけがにより障害を持たれた方々が、地域の一員として再び安心・安全に生き生きと暮らして行けるように支援しております。現在、その目的を達成させるために1,200名を越す職員が勤務しておりますが、すべての法人職員は常に研鑽を積み、新たな取り組みにもチャレンジしております。

今後も職種を越えてのチーム力を一層高めて、皆さまに満足いただけるよう質の向上を目指して、なお一層の努力をいたす所存です。

輝生会の基本理念と方針

- 「人間の尊厳」の保持
- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「情報」の開示
- 「主体性・自己決定権」の尊重
- 「ノーマライゼーション」の実現

輝生会における患者さまの権利

- 人権を尊重される権利
- 最善の医療を受ける権利
- 自らの意思で選択・決定する権利
- 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利
- プライバシーの保護を求める権利

輝生会 「局長退任・参与就任のご挨拶」

多くの企業で世代交代を含み幹部・管理職の変遷が行われています。
今年度、輝生会では、石川理事長の会長就任、水間局長の理事長就任の表舞台と、事務局長・リハケア局長が局長を退任し、裏方の参与に就任することがセットとして決定しました。

2月1日に出された人事発令後、度々「参与とは何をする人ですか？」と問いかけられました。私たちの出した答えは、できるだけ適時・適在を心がけ、ほころびを見つけたら糸で紡ぎ、突出し過ぎていたらカンナを、傷がつきザラザラしていたらヤスリを、シワが寄っていたらアイロンをかけ、止まらない目からの汗にハンカチ…一番大事な感謝や感動を共有する。つまり話を聞く役割をメインにすることが責務と考えております。

これまでの部長・局長在任中の皆さまのご協力に心から感謝し、新たな役割に忠誠してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



小林 由紀子 参与



森本 榮 参与



輝生会 「局長就任のご挨拶」



リハケア局長
大川 智恵子

皆さま、こんにちは。
リハケア局長に就任致しました大川です。私は、看護師として一般急性期病院で20年、看護教育現場で4年の経験を経て、初台リハビリテーション病院に勤務いたしました。患者さま中心の看護・医療の提供ができていたと思っていました。ところが、輝生会でのすべての職員が職位・職種に関係なく、対等に自由に意見を述べ合いながら展開するチームアプローチに魅せられ続け、現在に至っています。
輝生会を選んで頂いた皆さまに最良の医療が受けられる環境を整えること、リハケアを提供する職員が専門職としての誇りを持って働ける職場環境にすることが、私のミッションと考え務めさせていただきます。



事務局長
堅田 由美子

輝生会は設立以来、リハビリテーションへの理想や夢を語る石川前理事長の熱い思いがスタッフへ共鳴し、質の高いチーム医療が実践できる法人へと成長してまいりました。
昨今ではマスコミ等でも高い評価をいただく機会もあり、その輝生会本部事務局長に就任いたしましたこと身の引き締まる思いであります。高齢社会における輝生会の社会的使命の大きさを考えると、先ず職員が安心して働ける職場であることが必要です。しっかりと職員をサポートし、ますます患者さま利用者さまに信頼していただける法人を目指したいと思います。精一杯努めますので、よろしくお願いいたします。

輝生会 入社式「新入職員を迎えて」

文責：教育研修局部長 宮田昌司

4月1日は穏やかな日差しと春風が心地よく、当法人が新入職員を迎え、年度のスタートとしては絶好の日和となりました。今年の新入職員は、医師5名、看護師32名、介護福祉士13名、理学療法士24名、作業療法士28名、言語聴覚士9名、ソーシャルワーカー5名、栄養士5名、事務5名、以上126名でした。



石川 誠 会長



水間 正澄 理事長

さて、今年の入社式の様子をお伝えします。本部研修センターに全員が着席し、新入職員と、それを迎える役員席が対面となり、ピンと張りつめたような雰囲気の中で開式しました。まず、石川誠新会長が、そして水間正澄新理事長が挨拶を述べられました。

会長は当法人を選択してもらったことへの謝辞とともに当法人の特徴であるチームアプローチのことを、理事長は歓迎の意とともに職員一同がサポートしていく構えを新入職員に伝えました。そして辞令交付となり、一人一人の氏名、配属、職種を読み上げ、辞令を理事長が丁寧に渡していきます。皆さん決意に満ち真剣な表情で受け取っていたのが印象的でした。



辞令交付

続いて、船橋市立リハビリテーション病院に配属の清水雅也 理学療法士が新入職員を代表して、謝辞とこれからの決意を述べられました。そして、ご来賓のセコム株式会社常務取締役・セコム医療システム株式会社取締役会長の布施敏郎様の講演では、恒例のセコムグループの概要とともに、セコムの企業としての考え方と輝生会の考え方と似ているところがあること、共にチャレンジ精神で頑張っていこうとお言葉を頂きました。

昼食をはさんで午後からは水間理事長の講演「輝生会理念と事業3本柱について」を皮切りに新採用者研修がスタートいたしました。新入職の皆さんは、初日から疲れたことでしょうか、しばらくは新採用研修漬けの日々となります。

ところで、輝生会の職員はおおよそ1,200余名。そのうちの約1割がこの春に入れ替わることになりました。新入職者とおおむね同数のお別れをつい数日前までに行っただけです。別れの後の新しい仲間との出会い。これはいずれも大切な事柄だと思います。長く在籍している職員にとっては、年中行事のようになっていますが、この二つの出来事によって、毎年刺激を受け、成長しているのではないかと、そんなことを考えました。ドキドキして試されるのは新人だけではない、むしろ受け入れるスタッフの力が試される期間ともいえるのでしょう。新鮮な初々しい気持ちと迎える職員のやる気に満ちた意欲とが交錯する年度初め。この一年を乗り切る力動があふれている、そんな季節に感謝しつつ、皆さん、気を引き締めていきましょう。



新採用者研修